

花游雲月亭

梅花游水雲誘月

梅花は水に遊び 雲月を誘う

白鷺憩田鵬舞空

白鷺は田に憩い鵬は空に舞う

年々歳々萬花開

年々歳々 萬花開き

歳々年々緑水漲

歳々年々 緑水漲る

桃柳翁 こと 天羽英雄 書



花游雲月亭は水路が一方を巡り建物の景観に潤いを与えています。

それでは、先に作った漢詩を絶句形式になっているかどうかが調べてみましょう。

花游雲月亭（かゆうづんげつてい）

梅花游水雲誘月 梅花は水に遊び 雲月を誘う

白鷺憩田鵬舞空 白鷺は田に憩い鵬は空に舞う

年々歳々萬花開 年々歳々 萬花開き

歳々年々緑水漲 歳々年々 緑水漲る

たくさん規則違反をしています。まず、第二式と第三式で

1 2字目が となっております。これは とならなければいけません。

2 4字目も となっております。 でないといけません。

3 二六対 起句 花 誘 違反です。

4 下三連句 結句 緑 水 漲 違反です。

5 同字相犯す 起句 花 水 転句 花 結句 水 違反です。

6 韻が踏めていません。平声の韻 起句 月 仄 違反です。結句 漲 違反です。転句 韻を踏みませんが平仄が違います。開 平 違反です。また、韻が平声で統一して踏めていません。なかなかやつかいでしょ(笑)。推敲といつに値するかもしれませんがね。

花游雲月亭

梅花游水月誘雲

白鷺憩田鵬舞空

歲々年々開萬華

年々歲々綠紛紜

どっつやら出来たようです。しかし、最初に構想していた水路に恵まれた情景が少し弱められたような気もしないではないですが、新田大作先生の仰るには「自己内心の要求など」のこととを、いわゆる近代詩論的なことは、この際厳禁で、詩語集を使って、そこにある(詩語)(韻)(転句)を利用して、編の詩をまとめる方針にしてください。」「とのことですので、今後また推敲を重ねることにいたします。

初めて漢詩(七言絶句)を作ることができました。これからもぼちぼち作ってほしいと思います。

(注)

印は平声を、 は仄(上声、去声、入声)を意味します。 は平声で韻を踏んでいることを意味します。平仄(ひょうそく)を合わすとはここからきています。

桃柳翁(とうりゅうおん)

子供の時から早熟で、島崎藤村、詩吟などに興味を持ち、詩を暗誦していた。高校の時にヴェルレーヌ、ランヴオウ、ボードレールを読み少しカブっていたが、学校の授業で、三好達治、西脇順三郎、漢詩に出会い深く共鳴する。漢詩は漢文の近藤仁教先生の朗読に感銘し、中国語の美しい発音、韻に酔う。千里鶯鳴いて緑紅に燃えんと欲す……セントリーウパリリウテイヨウ……三十才のころに、ふとしたことで、図書館で唐詩選を借り、著者の熱い思いが伝わり、唐の時代の長安の華麗な都の風景が眼前にまざまざと見え漢詩にはまる。杜甫、李白、王维、白乐天、蘇東坡詩集、中国私詩集等を読む。一時、蘇東坡に傾注する。若い時に俳諧にも興味を持っていたが、ペンネームを作ろうと十九才の時に思い立ち、芭蕉の若き日の俳号「青桃より桃の字を、陶淵明が五柳先生と呼ばれていたことを知り、柳の字を頂いて「桃柳翁」といつペンネームで創作活動をすることにした。頭でっかちの青春時代の傲岸な思いつけた名であるが、長年使っていると、それなりに愛着もあり、今も使用している。